

平成30年度災害廃棄物処理計画策定モデル事業（京田辺市）

災害廃棄物処理計画の策定を目指し、京田辺市を対象としてモデル事業を実施した。

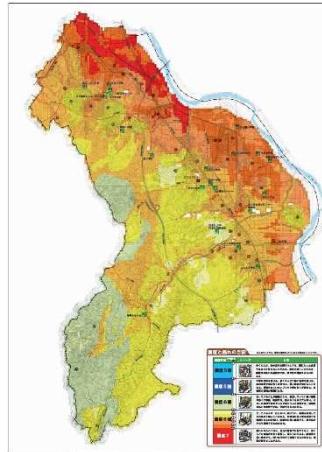
モデル事業の対象

発生量（災害廃棄物・し尿等）
処理可能量
仮置場面積、仮置場のレイアウト

被害想定

- 対象とする災害
- 地震：生駒断層帯地震（右図）
全壊棟数：約8,030棟
 - 風水害：木津川の氾濫
全壊棟数：約6,769棟

生駒断層帯地震の震度分布



災害廃棄物・し尿等の発生量の推計

【考え方】
 災害廃棄物発生量 = 建物被害棟数（棟）× 発生原単位（t / 棟）× 種類別割合
 し尿発生量 = 仮設トイレ需要者数 × し尿の1人1日平均排出量 × 収集間隔日数
 片付けごみ（試算） = 被災世帯数 × 発生原単位

【結果】
 災害廃棄物：約122万t（生駒断層帯地震）、約81万t（風水害）
 し尿：約15万L/日（生駒断層帯地震）
 片付けごみ（試算）：約0.6～5.9万t（生駒断層帯地震）、約0.7万t（風水害）

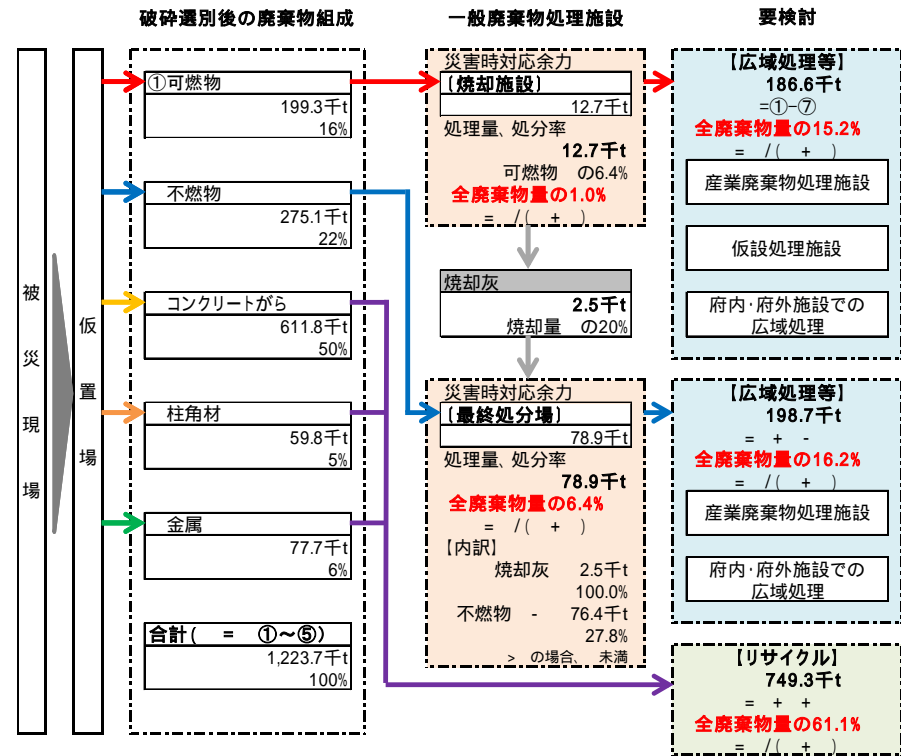
災害廃棄物の処理可能量の検討

【考え方】
 焼却施設
 [指針] 処理可能量（t / 3年） = 年間処理量（実績） × 分担率
 [最大利用方式] 処理可能量 = 災害時対応余力 × 年間稼働日数 × 年間稼働率（1年目） + 災害時対応余力 × 年間稼働日数 × 2（2～3年目）

最終処分場
 [指針] 埋立処分可能量（t / 2.7年） = 年間埋立処理量（実績） × 分担率
 [最大利用方式] 10年後残余容量 = 残余容量 - 年間埋立容量 × 10年

【結果】

災害廃棄物処理フロー【生駒断層帯地震】



破砕選別後の災害廃棄物の搬出先【生駒断層帯地震】

破砕選別後の廃棄物組成	発生量 (千 t)	搬出先
可燃物	199.3	12.7千 t を焼却施設で処理可能 186.6千 t の処理・処分方法について、広域処理等を検討
不燃物	275.1	焼却灰 2.5千 t と合わせ、198.7千 t の処理・処分方法について、広域処理等を検討
コンクリートがら	611.8	全量を再生資材として活用
柱角材	59.8	全量を木質チップとし、燃料もしくは原料として売却
金属	77.7	全量を金属くずとして売却

